

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：27104
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2018～2020
 課題番号：18H00950
 研究課題名(和文) 児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に

 研究課題名(英文) International Comparative Study on Alternative Care for Children: Focusing on Japan, Korea, England, and Germany

 研究代表者
 細井 勇 (hosoi, isamu)

 福岡県立大学・人間社会学部・特任教授

 研究者番号：70190204
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：主な研究成果は以下の通りである。イギリスへの調査研究を通じて、とくにスコットランドにおけるソーシャルペダゴジー導入の現状についての知見を、研修機関CELCISを通じて得たこと、イギリスを代表するソーシャルペダゴジーの研究者マーク・スミス教授を招聘しての研究集会を開催し、報告書を刊行できたこと、デンマークのソーシャルペダゴグ養成教育について、デンマークのペダゴグによる講演会の実施等を通じて知見を得たこと、ソーシャルペダゴジーに関する研究成果を各種学会、各種研修会で発表でき、論文ないし論集・報告書に結実できた。
 ここから今後日本の代替的ケアの改革の方向性を確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本共同研究は、ソーシャルペダゴジーの哲学、理論、実践概念、専門職養成教育、さらに他国への導入の実際的方法等について海外調査や国際交流を通じて知見を深めることができた。
 現在、日本の脱施設化と家庭化を目指す児童福祉改革は英米モデルの改革であろう。それは代替的児童ケアの担い手にしかるべき改革の方向性や哲学を示すものとなっていない。理論と実践をつなぐソーシャルペダゴジーに注目した本共同研究は、学術的な意味で開拓的な意義があると同時に、代替的児童ケアの改革の方向性に一つの指針を与えるという社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The main research results are as follows. (1) Through our research in the UK, we have gained knowledge of the current status of the introduction of social pedagogy, especially in Scotland, through the training institute CELCIS. (2) We were able to invite Professor Mark Smith, a leading researcher on social pedagogy in the U.K., to hold a research meeting (online) and publish his report. (3) We gained knowledge about social pedagogue training education in Denmark through lectures by Danish pedagogues, etc. (4) We were able to present the results of our research on social pedagogy at various academic conferences and workshops, and were able to publish papers and reports. From this, we were able to confirm the direction of reform of alternative care in Japan in the future.

研究分野：児童福祉やキリスト教社会事業史研究、現在ではソーシャルペダゴジー研究

キーワード：児童福祉 国際比較 ソーシャルペダゴジー 社会的養護 代替的ケア

1．研究開始当初の背景

(1)現在日本は児童福祉の改革期にある、という社会的背景である。その課題や改革の方向性を検討するためには国際比較研究が欠かせないと考えた。

(2)研究代表者の細井は、石井十次による岡山孤児院事業とイギリスのバーナードホーム（その後バーナードズへ改称）との比較研究の経緯から、イギリスでは2007年以降、教育と児童福祉の統合を図る制度改革の下で、ソーシャルペダゴジーの導入を図っていることを知った。また、ロンドン大学がソーシャルペダゴジーの国際比較研究を実施してきた経緯を知った。

(3)本共同研究の発足は日本ソーシャルペダゴジー学会の発足と並行した、という背景がある。代替的ケアの国際比較研究はヨーロッパにおける代替的ケアの価値、実践、専門職であるソーシャルペダゴジーに注目するものとなった。

2．研究の目的

(1)日本の児童ケア、とくに代替的児童ケア（施設養護）のあり方をめぐっては議論があり、関係者間で意見の対立がある。今日では、国際的児童ケア基準が国連で採択され、日本には日本の施設養護実践の伝統がある、という論理は通用しなくなっている。現在の日本の社会的養護改革は脱施設化であり、家庭を重視する英米モデルの改革であろう。しかしそうした改革は施設関係者には大きな戸惑いを与えている現状がある。そこから、ヨーロッパ諸国で広がっているソーシャルペダゴジーや、近年イギリスが施設養護の行き詰まりからソーシャルペダゴジーを積極的に導入している動向に目を向けていく必要がある、という判断に至った。

(2)本共同研究の目的は、代替的ケアの国際比較研究ないしソーシャルペダゴジーに目を向け、その知見を深め、日本の児童福祉実践への導入を志向することである。言い換えれば、児童福祉改革の課題と展望を国際比較や国際的交流、関係者との対話と交流を通じて切り拓いていくことである。

3．研究の方法

(1)本研究は、代替的児童ケアの国際比較研究を当面の目的としたが、その研究モデルは、ロンドン大学教育研究所が行った福祉レジームに着目した、イギリス、ドイツ、のデンマークの代替的ケアの比較研究であった。本研究では、これまでのイギリスとドイツの調査研究を土台として、社会民主主義レジームのノルウェーに注目するとともに、アジアモデルという視点も加えて韓国ないし日韓比較研究を加えることにした。

(2)当初の比較調査項目ないし視点は、以下の9項目であった。すなわち、養育支援と緊急保護との関係、保護手続における民間団体と行政機関と司法機関の関係、代替的ケアの形態と相互の関係、施設ケアの方法と内容、里親ないし養子縁組機関の実践、研修制度、ケア・リーヴァーへの支援、ケア記録の保管と開示、職員の資格制度、勤務形態、専門職養成教育等、である。こうした比較項目は、代替的ケアのあり方をより包括的にかつ多角的に捉えよう

とするものであったが、ソーシャルペダゴジーへの関心の高まりの中で、ソーシャルワークとソーシャルペダゴジーの関係は10番目の項目として浮上することになった。

(3) 比較調査の方法は、文献調査、海外出張を通じての関係者からのヒアリング、アンケート調査であった。しかし、実践の背景にある制度や働き方の違いがあって、単純な比較のためのアンケート調査の有効性に疑問が生じてきた。例えば日本の施設保護期間は長い、それは児童相談所における一時保護制度が前提となっている。しかし、欧米ではこうした仕組みがそもそもないのである。ドイツの施設では一時保護を担い、アセスメント機能を持つが、日本ではそうっていないのである。

(4) アンケート調査は以上のような問題への気づきと協力してもらえる施設の確保ができなかったという実情もあって実施しなかった。研究方法としては海外の関係者との交流が中心となった。とくにイギリスにおけるソーシャルペダゴジーの導入やそのための研修方法に着目することになった。また、当初計画していた日韓比較が困難となり、代わってフィリピンへの調査を行った。ノルウエーへの出張調査はコロナ感染で実現しなかったが、代わってデンマークのソーシャルペダゴジー(デンマークではペタゴ)の実際や、ペタゴ養成大学のカリキュラムと実習教育について知見を得ることができた。

4. 研究の成果

主な研究成果は大きく以下の4項目であった。

(1) スコットランドにおけるソーシャルペダゴジー導入の現状について知見を得たこと。

2008年頃から、Thempraと提携して、スコットランドの各地でソーシャルペダゴジーのための研修会をドイツ人ソーシャルペダゴグの招聘を通じて実施されてきたことが分かった。例えば、2008年9月から2009年1月にかけて実施された研修では、参加者は16名で、2名は里親、9名が施設の管理者とワーカー、2名が教員、2名が家庭支援の管理者とワーカー、1名が通所ケアのワーカーであった。9月に2日間、10月に3日間、12月の3日間、この研修後6か月に振り返りの研修が実施された。対話と省察(リフレクション)が繰り返され、理論と実践の往復が経験の振り返りの中で繰り返し確認されていく。メンバーが少人数で固定されているため、仲間意識も形成されていく。また、専門機関や組織間の境界を越えて考える方法を学ぶこととなる。その後2011年には、ストラスクライド大学の場所に研修機関CELICISが開設され、研修のための拠点ができることになった。2019年3月に科研費のメンバーでCELICISを訪問し、国際研修部長ミリガン氏による研修プログラムに参加し、ソーシャルペダゴジーとは何か、その導入のための研修のあり方等について貴重な知見を得ることができた。

日本での職員研修では講義形式の1回のみ研修が大半であって、理論と実践のつながりは見えないままになっている。実践の振り返りと対話を通じての集中的な研修が日本の課題であることを確認した。今後日本でも、ドイツからソーシャルペダゴジーを招聘しての集中的研修を各地で実施していくべきと考える。

(2) マーク・スミス教授を招聘(オンライン)しての研究集会の開催と報告書の刊行

スコットランドにはスコテッシュ・ペダゴジーと名称されるソーシャルペダゴジー導入の歴史がある。それはキルブランドン報告（1964年）に遡る。1968年のthe Social Work Actは、自治体と親の関係を対立的にする少年裁判所制度を廃止し、Children's Hearingという新制度を導入した。非行少年対策と健全育成対策（子育て支援策）の垣根をなくす改革であった。

2008年に、GIRFEC(Getting It Right For Every Child)が発足し、スコットランドの児童ケアの指針となった。GIRFECの第3は実践モデルであり、8つのウエル・ビーイングの指標が示されている。すなわち、Safe（安全と安心）、Healthy（健康）、Achieving（達成と楽しみ）、Nurtured（養育：ケア感覚）、Active（遊びの重要性）、Respected（尊重）、Responsible（責任と貢献：寛容の精神を育む）、Included（包括：コミュニティ感覚）である。この内容はマーク・スミスら著、檜原真也ほか訳『ソーシャルペダゴジーから考える施設養育の新たな挑戦』（明石書店、2018年）で詳しく日本に紹介されることになった。

マーク・スミスはスコットランドのストラスクライド大学で施設職員養成のための大学院コースを開設した人物であり、実践的かつ哲学的なソーシャルペダゴジーの研究者である。そこで日本ソーシャルペダゴジー学会との共催事業として開催した第6回ソーシャルペダゴジー学会（2021年9月）でスミス氏を（オンライン上で）招聘し、国際シンポジウムを開催し、2020年3月に報告書を刊行し、関係者に配布することができた。

（3）デンマークのペダゴー養成教育について知見を得たこと。

デンマークでソーシャルペダゴジーはペタゴーと名称されている。2019年9月、科研費研究のメンバーでデンマークのノーフュンス・ホルケホイスコレの研修プログラムに参加し、ペタゴーの実践場面の視察することができた。これを契機に、来日しているデンマーク人ペダゴーであるトリーネ女史を知ることになった。トリーネ女史はデンマークのペタゴー大学を卒業していることから、デンマークにおけるペダゴー養成教育の内容を紹介してもらった。2021年7月には日本ソーシャルペダゴジー学会との共催事業として、トリーネによる講演会を開催した。さらに、同年12月には福岡県立大学を会場として国際セミナーを開催し、福祉系学生にデンマークのペタゴー養成教育について紹介することができた。

ソーシャルワークとソーシャルペダゴジーの関係は各国各様であるが、デンマークでは役割は分業化されている。日本でソーシャルペダゴジーの導入を考える場合には、ソーシャルワークー養成教育の中にソーシャルペダゴジーの内容を盛り込むことが現実的な方法と考える。

（4）ソーシャルペダゴジーに関する研究成果を各種学会、各種研修会で発表でき、論文ないし報告書に結実できたこと。

2018年、細井は季刊児童養護に「社会による子育て」としてソーシャルペダゴジーとドイツの児童福祉について報告した。2019年3月のイギリスへの海外調査では、スコットランドのCELCIS、ロンドン大学の教育研究所、そしてバーナードズのアーカイブ（ケア記録の保管と開示）や養子斡旋機関アダプション・プラスを訪問した。そこで得られた知見は、2020年3月に、『イギリスにおける児童ケアおソーシャルペダゴジー スコットランド及びロンドン訪問調査報告

書』(全44頁)にまとめた。2019年10月にイスラエルで開催されたFICE国際学会で森及び西澤らは日本の施設ケアについて報告した。2019年10月に大分市で開催された小舎制養育研究会で細井は「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」との題名で基調講演を行った。森と細井は、2019年、ソーシャルペダゴジー学会で「ソーシャルペダゴジーという概念」等について報告した。ソーシャルペダゴジーの国際的動向についての研究成果を森は日本子ども虐待防止学会の学会誌(2020)で発表した。バルセロナ自治大学が開催したオンライン講座 Social pedagogy across Europe を受講しての知見として鬼塚(2021)がある。2021年9月に日本ソーシャルペダゴジー学会の第6回学術集会として実施したマーク・スミスによるソーシャルペダゴジーに関する二つの講演内容について2021年3月に報告書(全42頁)として刊行した。

4年間の共同研究の成果報告書(全69頁)を2022年3月に刊行した。この中で、森と伊藤はソーシャルペダゴジーの概念を改めて整理し、鬼塚はオンライン講座 Social pedagogy across Europe を受講しての知見を改めて整理し、ソーシャルワークの理論と実践の課題に結びつけた。阪野は、ソーシャルペダゴジー概念に依拠しながら施設養護実践の振り返りを論じた。三上は最近のバーナードズの活動を紹介し、細井はフィリピンで包括的児童ケアを行っているカンルンガン・サ・エルマの理念と理論と活動を紹介した。

全体として4年間の研究成果はソーシャルペダゴジーの理論と実践、そして国際的動向についての知見を深め、かつ、その研究成果を各種学会、各種職員研修会で報告できたことである。日本の代替的児童ケアの改革の方向性はソーシャルペダゴジーの実践的導入の方向性であろう。今後の課題は、より一層国際交流を深め、かつ、スコットランドに倣って集中的な研修を具体化することであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 細井勇	4. 巻 52
2. 論文標題 「地域づくりに向けた多宗教間連携を考える」の背景と意図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教社会福祉学研究	6. 最初と最後の頁 4 - 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森茂起	4. 巻 20
2. 論文標題 生を支える意志について：フェレンツィとドルトを参照して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 43 - 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 稲葉美由紀	4. 巻 2-44
2. 論文標題 SDGs と社会福祉 - 持続性のための新たな価値観と社会的連帯経済の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ehime Center for Policy Research	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子	4. 巻 5
2. 論文標題 保育ソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保育ソーシャルワーク学研究	6. 最初と最後の頁 49 - 62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井 勇	4. 巻 49-1
2. 論文標題 社会による子育てを考える - ソーシャル・ペダゴジーとドイツの児童福祉の紹介を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊児童養護	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigeyuki Mori, Satoru Nishizawa, & Arimi Kimura,.	4. 巻 9-1
2. 論文標題 Reconsidering recent developments in Japanese residential care and the road to FICE Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Child, Youth & Family Studies, Special Issue,	6. 最初と最後の頁 121-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18357/ijcyfs91201818123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuning Zhang, Charlotte C. A. M. Cecil, Edward D. Barker, Shigeyuki Mori, & Jennifer Y. F. Lau,	4. 巻 50-3
2. 論文標題 Dimensionality of Early Adversity and Associated Behavioral and Emotional Symptoms: Data from a Sample of Japanese Institutionalized Children and Adolescents.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Child Psychiatry & Human Development,	6. 最初と最後の頁 425-438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18357/ijcyfs91201818123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yuning Zhang, Emiko Tanaka, Tokie Anne, Shigeyuki Mori, Robert Bradley, & Jennifer YF Lau	4. 巻 91
2. 論文標題 Japanese residential care quality and perceived competency in institutionalized adolescents: A preliminary assessment of the dimensionality of care provision	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Children and Youth Services Review.	6. 最初と最後の頁 204-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18357/ijcyfs91201818123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 伊藤篤	4. 巻 19
2. 論文標題 地域子育て支援拠点における自閉児を対象とした療育実践に関する考察 実践者に対する聞き取り調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知(甲南大学人間科学研究所紀要)	6. 最初と最後の頁 7-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭仁・伊藤篤	4. 巻 11-2
2. 論文標題 養育者と子育て支援資源とのつながり 資源につながらない個人的要因に関する探索的検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 133-139
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭仁・伊藤篤	4. 巻 9
2. 論文標題 子育て支援資源の利用を促進・抑制する要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子育て研究(日本子育て学会)	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子	4. 巻 27-2
2. 論文標題 保育者のソーシャルワークに関する意識調査からの一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子	4. 巻 27-1
2. 論文標題 保育士養成課程における施設実習の課題 実習後調査からの考察-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古橋啓介・池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・中原雄一・伊勢慎	4. 巻 27-1
2. 論文標題 子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子・池田孝博	4. 巻 27-1
2. 論文標題 田川市の幼児の生活および家庭状況に関する調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 87-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子	4. 巻 26-2
2. 論文標題 「児童家庭福祉」受講生のこども観についての一考察: 「こどもへのねがい・誓いワーク」から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 241-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西澤哲	4. 巻 1
2. 論文標題 「新しい社会的養育ビジョン」が目指したもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子ども虐待の予防とケアのすべて (第一法規)	6. 最初と最後の頁 785-796
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森茂起	4. 巻 22
2. 論文標題 「社会的養育」のための人材育成 - ソーシャルペダゴジーを参照して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子ども虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増沢高・橋川英和・橋本達昌・伊藤篤・川並利治	4. 巻 23 - 1
2. 論文標題 社会的養護にかかる人材の確保・育成・定着について 施設、養成校、研修機関の連携と協働が拓く人材 共有の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 175-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤篤・大西晶子	4. 巻 58
2. 論文標題 乳幼児保育・幼児教育の場における保護者支援のあり方(1) 困難事例に関する保護者支援研究の視座	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 甲南女子大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森茂起	4. 巻 9
2. 論文標題 心理療法で語られるトラウマの物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神分析的な心理療法フォーラム	6. 最初と最後の頁 83 - 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼塚香	4. 巻 51
2. 論文標題 わが国でソーシャルワーカーが行うクライアントの日常生活支援の理論化に向けた課題～『Social Pedagogy Tree』を手掛かりに～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 草の根福祉	6. 最初と最後の頁 92-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪野学	4. 巻 53
2. 論文標題 家庭的養護の推進における里親養育の現状と課題についての一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 四條畷学園短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎	4. 巻 29-2
2. 論文標題 保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 215-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春	4. 巻 51
2. 論文標題 SDGsと地域共生社会の視点による社会福祉実践 - 多様な社会ニーズに対応する事例から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 草の根福祉	6. 最初と最後の頁 104-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井勇	4. 巻 なし
2. 論文標題 フィリピンにおけるストリートチルドレン支援団体、カンルンガン・サ・エルマ - その設立の理念と活動について-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に-」成果報告書	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森茂起	4. 巻 なし
2. 論文標題 ソーシャルペダゴジー概念の意義 - ヨーロッパの状況を踏まえて-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に-」成果報告書	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤篤	4. 巻 なし
2. 論文標題 保育相談支援とソーシャルペダゴジー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に-」成果報告書	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼塚香	4. 巻 なし
2. 論文標題 ソーシャルペダゴジー理論と実践の学びから見えてきた日本のソーシャルワーク理論と実践の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」成果報告書	6. 最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪野学	4. 巻 なし
2. 論文標題 施設職員の専門性とソーシャルペダゴジー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」成果報告書	6. 最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上邦彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 最近のパナードズの動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科研費共同研究「児童ケアの代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」成果報告書	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・池田孝博	4. 巻 29-1
2. 論文標題 保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Shigeyuki Mori
2. 発表標題 A trial to grasp the present caregiving environment and problems of Japanese residential care homes:For promoting better social pedagogic practice.
3. 学会等名 FICE International,34th world Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 ソーシャルペタゴジーとは何か - 今後の社会的養育を考えるために
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishizawa,S
2. 発表標題 Measurement of living environment and its associations with household-chore rules for children in residential care institutions in Japan.
3. 学会等名 FICE International,34th world Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Enid,O.Cox., Johnny Augustine,& Miyuki Inaba
2. 発表標題 The Social and Solidarity Economy Movement in the US:Potential Linkages to Social Welfare and Related Social Justice Movement.
3. 学会等名 UNSEE Knowledge Hub for SDGs,2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤篤・倉石哲也・鶴宏史・坂本純子・奥山千鶴子・中条美奈子・岡本聡子
2. 発表標題 Do Japanese Suppoters of Family Drop=in Centers Develop their Skills with Years pf Experience?
3. 学会等名 日本教師学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪野学
2. 発表標題 里子の自立支援の現状と課題
3. 学会等名 日本児童養護実践学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 ソーシャルペダゴジーという概念
3. 学会等名 日本ソーシャルペダゴジー学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 FICE-International テルアビブ大会報告
3. 学会等名 日本ソーシャルペダゴジー学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 細井 勇
2. 発表標題 ソーシャルベタゴジ-と児童福祉施設
3. 学会等名 日本ソーシャルベタゴジ-学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 ソーシャルベタゴジ-とF I C E
3. 学会等名 日本ソーシャルベタゴジ-学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉野寿子
2. 発表標題 保育者によるソーシャルワーク実践に関する研究：保育者へのアンケート調査からの考察
3. 学会等名 日本保育ソーシャルワーク学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西澤哲
2. 発表標題 社会的養護の今後を考える：「新しい社会的養育ビジョン」が示した方向性を中心に
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 子ども福祉と教育を横断するソーシャルペダゴジー概念に学ぶ
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会 いしかわ金沢大会, オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 ヨーロッパのソーシャルペダゴジー事情
3. 学会等名 日本ソーシャルペダゴジー学会, 5回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森茂起
2. 発表標題 社会的養育のあるべき姿 「ソーシャルペダゴジー」を参照して
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤篤
2. 発表標題 地域にひらかれた子育て～人をつなぎ、世代をつむぐ、そして地域と地域をむすぶ～：地域子育て支援拠点事業の多様性と事業の質向上に向けた取組
3. 学会等名 日本子育て学会第12回大会（オンライン大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤篤
2. 発表標題 社会的養護にかかる人材の確保・育成・定着について ～施設、養成校、研修機関の連携と協働が拓く、人材共育の可能性～」において「教員・保育士の養成からみえてくるも
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会（オンライン大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪野学
2. 発表標題 小規模型施設の夜間管理体制について - 施設の小規模化の課題 -
3. 学会等名 第13回日本児童養護実践学会（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪野学
2. 発表標題 親権代行における養育里親の限界 - 連帯・身元保証における制度の不備 -
3. 学会等名 第13回日本児童養護実践学会（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪野学
2. 発表標題 社会的養育における里親委託の現状と課題
3. 学会等名 日本児童養護実践学会第14回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細井勇
2. 発表標題 ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設
3. 学会等名 小舎制養育研究大会（第41回大分）大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 佐藤真久・北村友人・馬奈木俊介編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 158
3. 書名 SDG s 時代のESDと社会的レジリエンス	

1. 著者名 大西雅裕・三ツ石行宏・溝渕淳・阪野学他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 立帛社	5. 総ページ数 136
3. 書名 子育て支援セミナー	

1. 著者名 井村圭壮・今井慶宗編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 136
3. 書名 保育と子ども家庭支援論	

1. 著者名 和田上貴昭・那須信樹・原孝成編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同文書院	5. 総ページ数 155
3. 書名 Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習	

1. 著者名 倉石哲也・大竹智編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 MINELVA はじめて学ぶ子ども福祉4 子ども家庭支援	

1. 著者名 日本トラウマティック・ストレス学会編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 子どものトラウマアセスメント・診断・治療	

1. 著者名 野呂浩史(企画・編集)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 トラウマセラピーのためのアセスメントハンドブック	

1. 著者名 飛鳥井望編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 複雑性PTSDの臨床実践ガイド ト라우マ焦点化治療の活用と工夫	

1. 著者名 大西雅裕・山川宏和・浦田雅夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 116
3. 書名 事例で学ぶ社会的養護	

1. 著者名 佐藤真久・北村友人・馬奈木俊介（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 158
3. 書名 SDGs時代のESDと社会的レジリエンス	

1. 著者名 井村圭壮・今井慶宗編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 180
3. 書名 保育と子ども家庭支援論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 茂起 (mori shigeyuki) (00174368)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	伊藤 篤 (ito atushi) (20223133)	甲南女子大学・人間科学部・教授 (34507)	
研究分担者	三上 邦彦 (mikami kunihiko) (20381311)	岩手県立大学・社会福祉学部・教授 (21201)	
研究分担者	杉野 寿子 (sugino hisako) (30412373)	福岡県立大学・人間社会学部・教授 (27104)	
研究分担者	稲葉 美由紀 (inaba miyuki) (40326476)	九州大学・基幹教育院・教授 (17102)	
研究分担者	阪野 学 (sakano gaku) (50773636)	四條畷学園短期大学・その他部局等・教授(移行) (44421)	
研究分担者	鬼塚 香 (onizuka kaori) (60735992)	福岡県立大学・人間社会学部・准教授(移行) (27104)	
研究分担者	西澤 哲 (nishizawa tetu) (90277658)	山梨県立大学・人間福祉学部・教授 (23503)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三原 博光 (mihara hiromitu) (10239337)	県立広島大学・保健福祉学部（三原キャンパス）・教授 (25406)	削除：2019年1月28日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 岩手県立大学社会福祉学部国際セミナー 「英国のボランティア-団体」における「ソーシャルワーク実践」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 日本ソーシャルペダゴジー学会第6回学術集会「日常の中の専門性を考える」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 福岡県立大学2021年度第1回リカレントセミナー「デンマークの対人援助職”ペタゴ”から学ぼう」	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関